

春の消防訓練

中央棟 正面玄関

今年度第1回目となる消防訓練を4月22日に実施いたしました。

今回は、中央棟3階集中治療室内スタッフルームから出火したと想定し、訓練を行いました。出火現場の職員は初期消火および患者搬送訓練、その他の職員は避難誘導訓練を行い、実際に火災が発生した時でも、冷静かつ迅速に対応できるように訓練に取り組みました。訓練を視察した消防隊の方からは「煙の回りは横方向より縦方向の方が速い。」「避難階段が複数ある場合、出火点から遠く離れた階段を選択した方が良い。」とご指導いただきました。また、今回出火病棟でなかった部署のスタッフについては、自分達の周りにおける消火器・消火栓の位置は最低でも把握しておくように、と指導いただきました。

毎回、防災意識高揚のために特別イベントを用意していただいておりますが、今回は起震車が登場しました。そうです、地震対策の訓練等で見かけた、震度を体感する装置(今回は車)です。訓練参加者の中から、希望者が実際の震度を体感しました。震度7までを実際に再現してもらい、震度が高くなればなるほど、乗車しているスタッフはもちろん、見学しているスタッフにもその臨場感が伝わってきました。普段できないことを体験でき、充実した訓練となりました。

北部病院では、患者さまの安全を確保するために、医療安全や災害対策訓練を定期的に企画、実施しております。



奥手 起震車にて震度を体験

患者さまへのお知らせ・お願い

ロビーコンサートのお知らせ

- 5月 16日(金) 池内 光子さん(アコーディオン演奏会)
- 30日(金) 市川 哲也さん(ピアノ演奏会)

中央棟1階会計前ロビーにて、19:00より開催いたします。30分間の演奏会です。是非、お越しください。

コンサート予定表は、各病棟掲示板および会計前ロビーにて掲載しております。曲目につきましては、コンサート当日、会計前ロビーにて掲示いたします。ご確認ください。

患者様からのご意見・ご要望

日々患者さまより頂きましたご意見・ご要望に関しては関連する部署の責任者に報告しております。改善すべき点や取り入れたほうが良いことなど出来る限り対応したいと考えております。ご意見の中で特に危険なこと、多くの方が希望していることを優先に対応したいと考えております。もちろん少数意見も対応させて頂いております。

前回に引き続き、今までのご意見の中で多くいただいたものや最近よくいただくご意見・ご要望を中心に改善策を掲載させて頂きました。掲載されていない内容についても対応しておりますのでご了承ください。

今後もお気付きの点やご要望をお聞かせください。(= 進捗報告)

ご意見・ご要望	改善等
病棟ベッド配置について	『面会の時、カーテンが閉まっているとどこが誰だか分からない。部屋の入口に名前が付いていても、どこから順に並んでいるのか分からない。分かりやすいように表示をして欲しい。』とのご意見をいただきました。 当院での4人床、5人床におけるベッド配置は、すべて時計周りに配置しております。病室へ入られて左側より1番ベッドが配置されております。今後、病院案内等でのご案内を工夫させていただきます。

編集後記

桜も散って、あっという間に春が過ぎ去っていきました。地球温暖化の影響で年々季節がずれていく様な感じがしていますが、無意識のうちにはもう夏の準備に入りつつあります。

北部病院も8年目に入り、その特徴であった電子カルテシステムがここで全面入れ替えとなり、大きく第2段階にステップアップしました。この病院だよりも節目の第50回を迎え感慨深い思いです。開院からの7年を振り返り感じることは、他院からの紹介に加え、インターネットで検索して来院される患者さんが増加していることです。広報委員会の役割は重要で、決して「後方委員会」ではなく前線の動きをしていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。
広報委員会 委員長 島田 誠

北部病院だより 第50号
平成20年5月10日発行
発行責任者 田口 進(昭和大学横浜市北部病院長)
編集責任者 島田 誠(広報委員会 委員長)
発行 昭和大学横浜市北部病院
〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1
電話 045-949-7000(代表)
URL : <http://www10.showa-u.ac.jp/~hokubu/>
北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』が参照できます。

第50号【2008/05/10 発行】

発行者：昭和大学横浜市北部病院

巻頭言

『えびでんす おぶ Evidence Based Medicine』
呼吸器センター 准教授 北見 明彦

医師の配属・異動・退職
臨床研修医の紹介

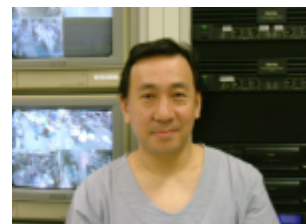
北部イベント
春の消防訓練
病院からのお知らせ
ロビーコンサートのお知らせ
患者様からのご意見・ご要望



お花が香り、緑薫る季節になりました。

巻頭言

『えびでんす おぶ Evidence Based Medicine』



呼吸器センター
准教授
北見 明彦

数年前、いかがわしい信仰集団のニュースが世間を騒がせたことがありました。詳しいことは忘れましたが、いかにも胡散臭い教祖様なる人物が登場し、全ての問いに対し、“定説です”、あるいは“それが定説である”などと繰り返すだけで、相手を煙にまいてしまう。というものだったと記憶しています。このユニークな教祖様の話と同列に語るのはいささか不謹慎かもしれませんが、近年臨床の場において EBM (Evidence Based Medicine) という言葉がしきりに用いられる様になりました。EBMとは目指すべき証拠に基づいた医療と訳されますが、平たく言うとかく経験則に頼りがちな日常診療を、科学的根拠すなわちエビデンスに基づいておこなうというものです。EBM自体は至極もったもなことであり、あまた氾濫するエビデンス(学術論文や学会報告)の妥当性を評価し、設定されたエビデンスレベルを決定するというEBMの手法は画期的でもあります。しかし一方で、エビデンスレベルが高いとされ日常的に一般化されつつある診療あるいは治療法が、新たなエビデンスによりひっくり返ってしまうという現実もあり、絶え間ないエビデンスの波に振り回されているという感があるのも否めません。また治療方針を決定するカンファレンスなどでも、一つの治療法に対して“エビデンスがない”あるいは“エビデンスに乏しい”というように否定的に使われることが圧倒的に多く、高いエビデンスに基づいて治療方針を決定していくということは意外に難しいようです。

肺癌の外科治療に携わり20年近くになりますが、若い頃たきこまれ、金科玉条のごとく信じ込んでいた肺癌のリンパ節郭清の効果(必要性)のエビデンスレベルは必ずしも高いものではなく、有効性が乏しいとされていた術後補助化学療法は、近年の報告によりエビデンスレベルが高まり推奨されるようになった矢先に、その有用性も疑問視せざるをえない新たな報告の出現により、ますます混沌としてきている感があり、また近年広く浸透した鏡視下手術に関しても、肺癌においては riskに見合うだけの低侵襲とはたしていえるのかどうか?あるいはそもそも鏡視下手術そのものが本当に低侵襲なのか?という問いに対する確固たるエビデンスは不在といわざるを得ない現実があります。最近患者さんと治療方針に関する相談をする際に、断定的な物言いが少なくなり、曖昧な表現が多くなっている自分に気がつかされることがあります。いっそ“これが定説です”と言いきってしまえば、私も患者さんもどんなに楽になるだろうと考えてみたりもしますが、その日は当分きそうもありません。

医師の配属・異動・退職

新規配属医師

4/1 付【3/2～4/1】

友安 幸子
(眼 科)
東邦大学
平成 14 年卒

玄 良三
(呼吸器センター)
昭和大学
平成 18 年卒

丹澤 盛
(呼吸器センター)
昭和大学
平成 18 年卒

亀田 亮
(消化器センター)
横浜市立大学
平成 15 年卒

堀越 邦康
(消化器センター)
聖マリアンナ医科大学
平成 10 年卒

池田 晴夫
(消化器センター)
順天堂大学
平成 14 年卒

横山 顯礼
(消化器センター)
昭和大学
平成 16 年卒

竹原 雄介
(消化器センター)
徳島大学
平成 18 年卒

大本 智勝
(消化器センター)
弘前大学
平成 18 年卒

塩飽 洋生
(消化器センター)
福岡大学
平成 15 年卒

豊嶋 直也
(消化器センター)
昭和大学
平成 18 年卒

林 靖子
(消化器センター)
昭和大学
平成 18 年卒

及川 裕将
(消化器センター)
聖マリアンナ医科大学
平成 18 年卒

久津川 誠
(消化器センター)
熊本大学
平成 18 年卒

須藤 晃佑
(消化器センター)
新潟大学
平成 18 年卒

森川 吉英
(消化器センター)
秋田大学
平成 15 年卒

山本 明和
(心臓血管カテーテル室)
昭和大学
平成 18 年卒

鎌方 ルミ子
(メンタルセンター)
北里大学
平成 18 年卒

竹内 正直
(こどもセンター)
佐賀大学
平成 18 年卒

川本 愛里
(こどもセンター)
聖マリアンナ医科大学
平成 18 年卒

八木 進也
(放射線科)
山形大学
平成 18 年卒

児島 久美子
(放射線科)
東京女子医科大学
平成 18 年卒

福下 貴子
(放射線科)
聖マリアンナ医科大学
平成 18 年卒

工藤 勝秀
(外 科)
大阪医科大学
平成 14 年卒

中野 賢英
(外 科)
昭和大学
平成 18 年卒

林 昌貴
(産婦人科)
昭和大学
平成 16 年卒

前田 智子
(泌尿器科)
昭和大学
平成 18 年卒

遠藤 貴美
(眼 科)
昭和大学
平成 17 年卒

榎 幸臣
(耳鼻咽喉科)
聖マリアンナ医科大学
平成 18 年卒

高橋 郷
(耳鼻咽喉科)
昭和大学
平成 18 年卒

藤居 直和
(耳鼻咽喉科)
昭和大学
平成 18 年卒

これ以降附属病院より
異動医師紹介です。

大池 信之
(病理科)
昭和大学医学部
第 1 病理学教室より

城井 義隆
(リハビリテーション科)
豊洲病院
内科(リハビリ室)より

桑名 亮輔
(脳神経外科)
昭和大学医学部
脳神経外科学教室より

南 雅之
(眼 科)
昭和大学医学部
眼科学教室より

篠 美紀
(耳鼻咽喉科)
昭和大学医学部
耳鼻咽喉科学教室より

永田 将一
(泌尿器科)
昭和大学医学部
泌尿器科学教室より

岡本 義久
(こどもセンター)
藤が丘病院
小児科より

和田 幸寛
(内 科)
藤が丘病院
内科・腎臓より

松澤 有希
(皮膚科)
昭和大学医学部
皮膚科学教室より

【配置転換】山本真寛(内科 救急センター)
【出張終了】菅原 草(泌尿器科)
谷口 貴実子(こどもセンター)

異動・退職医師

3/31 付【2/29～3/31】

【退 職】

辻 正富(内科) 野中 善治(こどもセンター) 長山 裕之(消化器センター)
真野 英寿(リハ科) 井上 吐州(眼 科) 荻野 大(眼 科)
石田 良(耳鼻咽喉科) 薄井 庸孝(放射線科) 水野 研一(消化器センター)
青山 洋(メンタルセンター) 坂上 聡志(外 科) 林 隆広(外 科)
高木 信介(外 科) 相楽 玲(皮膚科)

【長期出張】

児玉 健太(消化器センター) 近藤 純史(消化器センター) 渡邊常樹(こどもセンター)
田山 愛(こどもセンター) 中澤 あい(内 科) 佐藤 直也(泌尿器科)

【転 出】

大眉 寿々子(藤が丘リハビリ病院へ) 近藤 哲郎(医学部産婦人科学教室へ)
青木 慶一郎(藤が丘病院へ) 杉山 朋子(医学部第 1 病理学教室へ)
渡辺 太郎(医学部小児科学教室へ) 大山 伸雄(藤が丘病院小児科へ)
溝淵 正英(大学病院腎臓内科へ) 池田 賢一郎(医学部耳鼻咽喉科学教室へ)
上村 祐加(歯科病院歯科麻酔科へ)

藤崎 恭子 昭和大学卒業
5 月 呼吸器センター(外)
6 月 同 上

はじめまして。この度北部病院で研修させて頂くことになりました。藤崎恭子と申します。昭和大学出身、大学時代はバドミントン部に所属しておりました。

研修が始まり、初めてだらけのわからないことばかりですが、北部病院の温かく指導熱心な先生方やスタッフの方々に支えて頂き、学ばせて頂くことも多く、充実した日々を送っております。

まだまだ未熟な点ばかりですが、研修の中で技術や知識等一つ一つできることを増やしていきたいと思っております。そして少しでも早く患者様のお役にたてるよう医師として精進していきたいと思っております。

どうぞよろしくお願ひいたします。

船木 翔 昭和大学卒業
5 月 内科
6 月 同上

はじめまして、昭和大学出身の船木翔と申します。このたび北部病院で研修をさせて頂くことになりました。

現在は総合内科で研修しています。学生の頃には気がつかなかった発見にあふれる毎日を送っております。電子カルテや病棟処置をはじめ、今はまだ右も左もわからない状態です。先生方、スタッフの皆様には多くのご迷惑をおかけしておりますが、医師になくなくてはならない知識、技術、態度を少しでも多く学べるよう努力して参ります。

2 年間を実りあるものにしたいと思っております。どうかご指導よろしくお願ひ致します。

松坂 貴太郎 昭和大学卒業
5 月呼吸器センター(内)
6 月 同上

昭和大学出身研修医 1 年目の松坂貴太郎です。

大学時代は 3 年までゴルフ部に所属しており、その後は軽音楽部へ移って活動しておりました。趣味は音楽で、聴くのも好きですが、演奏するのも好きで、特にピアノを弾くのが趣味です。

北部に 1 ヶ月が経とうとしていますが、まだまだ分からない事だらけで戸惑っています。今は呼吸器センターで学ばせてもらって充実した日々を送っています。これから色んな診療科をまわらせて頂いて、色んな事を学び、勉強しながら吸収していきたいと思っていますので、ご指導のほどよろしくお願ひ致します。

山内 章裕 昭和大学卒業
5 月 消化器センター(外)
6 月 同上

はじめまして。昭和大学卒の山内章裕と申します。

6 年次に 1 ヶ月間実習させていただき、非常に良い経験をさせていただきました。この北部病院で研修できるという事をとても嬉しく思います。

現在、消化器センターの外科をローテーションさせていただいています。研修生活に少しずつ慣れてきていますが、緊張の中で毎日があっという間に過ぎていきます。

まだまだ知識、技術はもちろん、医師としての態度など、全てにおいて未熟なので、先生方やスタッフの皆様にご迷惑をかけてしまうと思いますが、一つ一つ確実にできることを増やしていきたい、足手まといにならないようにしたいと思っております。どうぞ見捨てずにご指導、ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。

研修医オリエンテーション風景

平成 20 年度は 21 名の研修医を迎え、4 月 3 日から 13 日まで各種オリエンテーションを行いました。研修医としてのマナー・ルールの講演会から、医療安全に関わること、院内感染に関連すること、さらには電子カルテ訓練や、救急診療に対応するためのレクチャーを各診療科の上級医から受けました。

また、今年度の新しいプログラムとして、秦野中井にあるテルモメディカルプラネックスという研修施設を利用して実地手技訓練を行いました。この施設は利用者の研修企画にあわせ、手術室・内視鏡室・造影室に入室し、血管造影装置に触れることや実際にカテーテルを使った実験、手術時に不可欠な人工心肺装置を操作することなどが可能です。この施設で、採血実習、導尿・胃管挿入実習などを上級医や先輩研修医、看護師の指導・協力のもと一日かけてトレーニングを行いました。トレーニングの最後には、手技実習の総括として、研修医 3 名によるシミュレーションを行いました。このシミュレーションは手術室で急変した患者さんを甦生するといったシナリオで、緊迫した雰囲気の中、実習の成果を発揮しました。

そして、最終日の夜には歓迎会を開催しました。自己紹介文にありますように、これからの抱負をそれぞれがのべ、病院長はじめ上級医の先生方から期待や励ましの言葉をいただきました。先輩たちの前で、緊張しながら自己紹介した彼らの表情は、まだ初々しいものでしたが、これから医師として羽ばたいていくぞ！という強い意志に満ちあふれていました。



テルモメディカルプラネックスにて



病院内会議室にて

平成20年度臨床研修医紹介

平成20年度は21人の研修医を迎えることになりました。2年間の研修期間で各科をローテーションし、それぞれの専門分野を勉強します。3年以降は自分の選んだ専門領域に進むわけですが、医師としての基本的な技能や姿勢、いうなれば「富士の裾野を広げる」貴重な時期と思います。医学生の際のローテーションとは異なり、患者さんに実際に触れ、診療を行うことは医者になった実感をもたれることと思います。希望と期待とはうらはらに不安や心配、時には落ち込むこともあるかもしれませんが。指導医からは単に医療の技術的な面を習うばかりではなく病に悩む人の気持ちを思いやる気持ちを学ぶことが必要です。私が医師になったときに当時の主任教授よりいわれた言葉のなかに「患者さんが教科書です」といわれたことは今でも心に残っています。いつまでも今の情熱を忘れずに、自らの智と心を鍛錬していける立派な医師となっていられるよう期待しています。

表の見かた

研修医 顔写真	研修医氏名	出身大学
------------	-------	------

5月 研修先診療科
6月 研修先診療科

自己紹介文

加藤 一樹

埼玉医科大学卒業
5月 画像診断/緩和ケア
6月 救急センター

初めまして、今年からこの北部病院で研修医として働かせていただく埼玉医科大学出身の加藤一樹と申します。一年目は放射線科 緩和ケア 救急 麻酔 消化器（内科）循環器（外科）とローテーションしていきます。趣味はいろいろとありますが、一番は音楽です。聴くだけでなくギターを弾いたりします。本を読むのも好きで最近『伊坂幸太郎』にハマっています。他にも村上春樹や沢木耕太郎をよく読みます。なにか面白い本があればぜひ教えてください。学生時代はサッカー部に所属しておりました。体を動かすのが好きなので、なにか新しいスポーツでも始めようかと計画中です。この2年間をより実りのある研修にしたいと思っています。至らぬ点は多々ありますがご指導の程よろしくお願い致します。

田嶋 蘭子

昭和大学卒業
5月 麻酔科
6月 同上

初めまして、昭和大学出身の田嶋蘭子と申します。中高は千葉の東邦大学付属東邦でした。現在の実家も田園都市線沿線と近い、この北部病院で2年間研修をさせていただきました。研修が始まって2週間弱、今はまだ自分が医師として働いていることが信じられず、先生と呼ばれることにとまどいを覚える日々です。社会人としても1年生で、右も左も分からず皆様にはご迷惑をおかけすることが多々あると思います。多くの先生方、スタッフの方々の温かいご指導のもと、少しでも早くまともな仕事が出来るように努力したいと思います。そして何より、患者さんには常に心ある医療を。仕事だから...と割り切って行うようにならないように、医師を志した初心を忘れずにいたいと思います。これから一緒にいる機会がある方もない方も、どうぞよろしくお願いいいたします。

荻野 裕希子

聖マリアナ医科大学卒業
5月 緩和ケア/画像診断
6月 麻酔科

『初めまして、聖マリアンナ医科大学出身の荻野 裕希子(おぎの ゆきこ)と申します。北海道出身ののんびり屋で、大学時代はコーラス部に所属しておりました。社会人として、医療従事者として、まだまだ未熟であり、諸先生方、スタッフの方々には何度もお聞きしたり、ご迷惑をおかけして申し訳なく思いますが、その都度、優しく教えてください、毎日感謝の気持ちでいっぱいです。第一希望就職先でもあるこのような北部病院に温かく迎えて頂き、本当に嬉しく思います。成長の速度は、人より遅いかもかもしれませんが、疑問や不安を一つずつ乗り越えて、2年間の研修がすべて北部病院の力となるよう、しいては患者様のためとなるよう、日々精進していく所存です。どうぞ、皆様ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。』

滝口 修平

昭和大学卒業
5月 麻酔科
6月 同上

はじめまして、今年4月から2年間北部病院で研修させて頂く滝口修平と申します。千葉県船橋市出身の24才です。中学から陸上を始め、学生の時も陸上部に所属し、趣味のフットサルやカラオケをしながら楽しく過ごしていました。現在は麻酔科で研修しています。このきれいで素晴らしい北部病院で研修できることを大変うれしく思います。まだまだ慣れないことだらけで先生方やスタッフの皆さん、患者さんに助けられながらの毎日です。これからもなにかとご迷惑をおかけすることと思いますが、感謝の気持ちを忘れず、立派な医療人になれるよう、技術、人格とも成長できるよう日々努力していきたいと思ひますのでどうぞ宜しくお願いします。

筒井 完明

昭和大学卒業
5月 救急センター
6月 同上

初めまして、昭和大学卒の筒井完明と申します。大学時代は学業の方はそこそこに、日々ラグビーをして過ごしておりました。現在は救急センターにて7月末までお世話になっております。研修医として病院に立つようになり1週間半が過ぎました。完全にお荷物の現状からいち早く離脱し、医療スタッフの皆さんに「使える研修医」という評価を頂けるよう日々努力を重ねていきたいと思ひます。特に秀でた学力も無く、体力だけがウリという人間ですのでご迷惑をおかけすることも少なからずあるかと思いますが、ご指導の程よろしくお願ひ致します。

三沢 志保

埼玉医科大学卒業
5月 呼吸器センター（内）
6月 同上

はじめまして。こんにちは。私は埼玉医科大学出身です。大学ではあやしい卓球部に所属していました。父が昭和大学出身という事もあり北部病院を選びました。実家は横浜で趣味はサーフィンです。学生時代は湘南をメインに時間のあるときは千葉、茨城、静岡などの海に出発していました。私が今まで行った中で一番よかったと思う日本の海は宮崎です。波がいいのももちろんですが県全体の雰囲気も南国な感じで、でも田舎っぽくて暖かい所でした。これからは時間がなくてあまり海にも行けませんが、2年間頑張っていきたいので色々とよろしくお願ひします。

岩本 泰斗

昭和大学卒業
5月 内科
6月 同上

はじめまして。昭和大学医学部出身の岩本泰斗と申します。徳川家康の故郷、愛知県岡崎市で生まれ育ちました。学生時代は弓道に明け暮れておりました。横浜市北部病院には昭和大学に入学した頃から興味を持っておりました。この度この病院で働かせて頂くことができ、大変光栄に思っております。今は慣れない仕事に戸惑ったり、焦ったりして思うように行かず、ご迷惑をお掛けするばかりですが、この2年間でスタッフの皆様、先生方、そして患者様からできるだけ多くのことを学び、視野の広い医師を目指したいと思っています。精一杯努力しますのでご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願ひ致します。

小川 悠史

昭和大学卒業
5月 呼吸器センター(外)
6月 同上

今年から北部病院で2年間研修させていただきます小川悠史です。4月14日より呼吸器センター（外科）での研修が始まり、日々自分の無知と無力さを痛感し、周りのスタッフの方々に迷惑だけをかけている毎日です。これから諸先輩方・スタッフの方々のご指導を受けつつ、自分でも悩み・考え・行動し、時には失敗し落ち込みつつも、可能な限り一歩一歩前へ前へと進み、たまに後ろを振り返りながら成長し、せめて卵から孵ったヒナくらいにはなりたいと思ひますので今後ともご指導よろしくお願ひします。

山川 啄司

昭和大学卒業
5月 内科
6月 同上

はじめまして研修医一年目の山川と申します。現在内科の化学治療班を回っています。始まって2週間ほど経ちましたが、まだまだわからないことも多く、班の先生からだけでなく患者さんからもいろいろなことを教えてもらいながら研修しています。初めは苦手だった電子カルテでしたが、先生方に教わり少しずつですが、慣れてきました。最初は朝早い採血がつかったのですが、患者さんに「ありがとう」とか「うまくなったね」と励みの言葉を言かけていただけようになってからは朝もつらくなりませんでした。これからも少しでも多くのことを学べるよう努力したいと思ひます。宜しくお願ひします。

岡部 俊孝

昭和大学卒業
5月 循環器センター（内）
6月 同上

はじめまして、昭和大学出身の岡部俊孝と申します。学生時代は帰宅部に所属し、主にアルバイトをしていました。現在は循環器センターで研修させていただいております。まだまだ分らないことばかりで患者様、先生方、スタッフの皆様方に多大な迷惑をお掛けしておりますが、皆さまの温かいご指導のもと1つ1つできることを増やしていきたいと思っております。皆様に信頼していただけるよう日々精進いたしますゆえ、今度ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

加藤 雅典

昭和大学卒業
5月 救急センター
6月 同上

はじめまして。昭和大学出身の加藤雅典と申します。研修が始まって2週間あまりが経ちました。学生時代の机の上の勉強から患者さんの前での勉強に移り変わり、まだまだ何もできない自分の未熟さを感じると共に、臨床の場で働くことの充実感を感じる日々をすごしています。2年間の研修を通して医療者として必要な知識・技術・態度を少しでも多く学びたいと思っています。電子カルテの操作、病棟業務、当直外来業務など、覚えなくてはならないことがたくさんあり、スタッフの方々にご迷惑を掛けてしまうかと思いますが、北部病院の一員として役立てるよう一歩一歩進んで生きたいと思ひますので、ご指導のほどよろしくお願ひ致します。